

上茅原において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

上茅原

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

担い手農業者の育成・発掘を行うとともに、耕作放棄地の発生を抑制するために、獣害に強い転作作物の作付や保全管理を行っていく。また、新たな畑作物の導入や高付加価値化も今後検討していく。

夏明地区において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

夏明地区

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

- ・ 獣害対策について、農作物への被害を防止するため集落が一体となった取り組みを進めていく。
- ・ 地域での作付け品種の検討や販路の開拓など米のブランド化に向けて取組んでいく。

勢津町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

勢津町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

担い手農業者の育成・発掘を行うとともに、耕作放棄地の発生を抑制するために、獣害に強い転作作物の作付や保全管理を行っていく。

与原町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

与原町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 1 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

担い手農業者の育成・発掘を行うとともに、耕作放棄地の発生を抑制するために、獣害に強い転作作物の作付や保全管理を行っていく。また、新たな畑作物の導入や高付加価値化も今後検討していく。

射和町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

射和町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域の中心経営体に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

野生鳥獣のすみかとなる耕作放棄地の発生抑制に努め、営農活動の維持・継続を図る。

庄町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

庄町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域の中心経営体に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

さらに、機械の共同利用や、農作業の分担を行うなど、集落営農組織の設立を検討していく。

野生鳥獣のすみかとなる耕作放棄地の解消及び発生抑制に努め、営農活動の維持・継続を図る。

上蛸路町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

上蛸路町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域の中心経営体に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

野生鳥獣のすみかとなる耕作放棄地の発生抑制に努め、営農活動の維持・継続を図る。

東町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

東町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

今後営農が継続できないと判断した場合は、地域の中心経営体に農地を集積し、遊休農地の発生を防止する。

矢津町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

矢津町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 2 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域の中心経営体に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

野生鳥獣のすみかとなる耕作放棄地の発生抑制及び解消に努め、営農活動の維持・継続を図る。

嬉野上野町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

嬉野上野町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 1 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

耕作放棄地が出ないように、地域の担い手に集約し、地域で農地を守っていく。地域農業者と連携・話し合い・力を借りながら維持していく。

西野（林・本郷）において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

西野（林・本郷）

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 1 経営体

個人 2 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域の中心経営体に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。また、近年増加しつつある獣害被害の防止にも対応していく。

中万町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

中万町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 2 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

中心経営体に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

集落営農の組織化を検討していく。

阿波曾町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

阿波曾町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域の中心経営体に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

さらに、機械の共同利用や、農作業の分担を行うなど、集落営農組織の設立を検討していく。

野生鳥獣のすみかとなる耕作放棄地の発生抑制に努め、営農活動の維持・継続を図る。

嬉野宮野町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

嬉野宮野町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 2 経営体

個人 1 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域の中心経営体に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。また、近年増加しつつある獣害被害の防止にも対応していく。